

【自由意見の内容】

(調査票回収期間 平成25年12月1日～12月9日)

景況調査票の自由意見欄に335通の貴重なご意見をいただきました。

ご多忙中にもかかわらずご記入をいただき、感謝申し上げます。

分類項目	意見数
1. 経済・景気動向	135
2. 業界の動向	80
3. 顧客・得意先	41
4. 為替	19
5. 金融・資金繰り	27
6. 売上・収益	97
7. 物価変動	16
8. 消費税	72
9. 中小企業税制	7
10. 人材の確保・育成	26
11. TPP	4
12. その他	18
計 (複数回答)	542

以下に、それぞれの特徴的な意見を掲載させていただきます。

なお、なるべく多くのご意見を掲載するため、若干の加筆・修正を加えています。

1. 経済・景気動向について

- ニュースや新聞では、景気が上向き、ボーナス増や賃上げをするとの話も出ているが、中小零細企業ではそのような実感はまだない。(電子部品・デバイス製造業)
- 景気に敏感な業種なので、アベノミクスの第三の矢に期待している。交際費の損金算入が大企業にも認められると、市場規模も大きいので、動向を注視している。(工業用プラスチック製造業)

- 中小企業にとって難しい時代になった。ビジネスはグローバル化に動いており、国境がなくなってきている。(医療用機器製造業)
- ここにきて、やっと景気が上向いてきた感がある。(管工機材卸売業)
- 市場全体は成長期に入ったと言われるが、流通業界は未だ低調な状況が続き、上昇の兆しはない。中小企業向けの経済対策をもっと考えて欲しい。(装身具・身の回り品卸売業)
- 日本の景気とともに、世界の景気動向が気になりである。(家具・建具卸売業)
- 消費者の買い控えがますます進んでいる。景気が良いのは一部で、一般的には悪くなっている。消費者は、先行き不安から、消費に向わない。消費税が上がればますます小売業は悪くなる。(靴・履物小売業)
- 景気はいまひとつ。庶民はサイフのひもを締める一方で、仕入や経費は上がるのに売上は伸びない。アベノミクスが隅々まで波及するには、あとどれくらいかかるのだろうか。(食肉小売業)
- オリンピックが決まり、景気が良くなるのではと期待している。(広告・ディスプレイ業)
- 大手メーカーだけが元気で、我々には景気改善の実感がない。(映像・音声制作業)

2. 業界の動向について

- 得意先が海外に移り、売上が減少。先行きはますます悪くなっている。(ばね・その他金属製品製造業)
- 部材の発注は海外に移り、国内ではコストダウンばかりが求められる。国内企業を育成しようという意識がなくては、技術は継承されない。(理化学・光学機器製造業)
- 寡占化が進み、中小の小売業が衰退している。大手小売業では、製造から販売までを一貫して行うSPAが進み、販路の選択に苦しんでいる。(靴・履物卸売業)
- 建築関係が改善傾向にあり、大手メーカーは利益増になっている。中小企業は未だ若干の伸びであるが、今後の職人不足を見据えた、早めの対策が必要である。(セメント・板ガラス卸売業)
- 薬品業界は、風邪の流行や花粉の量などで業績に影響がでるため注視している。薬のインターネット販売の行方にも注目している。(医薬品小売業)

- どのような仕事でも低価格で受注するという考えは少なくなり、利益が必ず出るような入札が多くなっている。多摩地域では不調となる入札も増加している。
(建築設計業)
- 飲食店は不振の企業が多い。大手企業がどのように対処するのか、注視している。
(一般飲食店)

3. 顧客・得意先について

- 得意先の国内生産が減少している。海外での現地生産・現地調達に移行しており、当社の仕事量は激減することが予想される。当社も海外生産ができれば仕事は確保できるが、経営資源が乏しくほとんど不可能である。
(金属加工機械製造業)
- 取引先がこの経済情勢の中で勝ち残っていくことを期待している。そのために、当社がどれだけ寄与できるかが問われる。
(その他化学製品卸売業)
- 景気動向が得意先に直ちに影響している様子はないが、来店客数など変化がないか、いろいろと聞いて回っている。
(装身具・身の回り品卸売業)
- 消費のあり様が変わってきたと感じる。消費者は、必要性があるものを、役に立つか満足できるかで判断し購買しているように見える。
(婦人服小売業)
- 輸出品を扱っているが、思うほど伸びていない。製造業の海外移転が進み、大半の製品が国内で生産されていない事が問題である。
(運輸附带サービス業)

4. 為替について

- 円安による原材料価格の上昇が激しいが、価格転嫁は難しい。(パン・菓子製造業)
- 景気ももっと良くなり、輸出が増えることに期待している。円安になれば海外に物が売やすくなるのではないか。
(理化学・光学機器製造業)
- ドル高・ユーロ高が気になる。急激な変動は良くない。中国経済や株式市場が安定することが経済に良いのではないか。
(スポーツ・玩具卸売業)
- アベノミクスの実感はあまりなく、逆に輸入業なので円安で大変困っている。近年で最も円安になり、仕入れにも悪影響が出ている。
(ジュエリー製品小売業)
- 為替の変動に伴い、差損益が発生している。動きが大きく、経営への影響も小さい。
(その他専門サービス業)

5. 金融・資金繰りについて

- 製造業は、量産単価で海外にかなわず、減少が続いている。今のままでは町工場はなくなってしまうと思う。赤字決算でも一定の売上があれば貸し渋りをしないよう、対策をしてほしい。
(金属素形材製品製造業)
- 景気は徐々に上向いているが、それに伴い支払いも増え、資金繰りが苦しい。リステ（返済の繰延べ）をしている企業にも温かい目を向けてほしい。
(電気計測器製造業)
- 新規事業のためだけではなく、撤退のための資金・融資も必要ではないか。
(不動産取引業)

6. 売上・収益について

- 仕事は多く、欠品が出るほどだが、製品単価が安く、お金が残らない。だが、なかなか値上げはできない。
(洋食器・刃物・金物製造業)
- 今期は、売上が減少し資金繰りが苦しい。短納期や仕事の手離れが悪く、売上・収益が伸びない。電気代や材料が高くなり大変である。
(金属素形材製品製造業)
- 新規の顧客が増え何とか前年並みの売上となっているが、既存の取引先だけでは厳しい状況。小売店では菓子はあまり売れていない様子だ。
(パン・菓子製造業)
- 売上は増えず、収益は採算点に届かない状況。さらに円安で仕入れ価格が上昇し、荒利益率も下がっている。
(生鮮魚介卸売業)
- メーカーから仕入単価の値上げ要請があったが、売価への転嫁は、年明け以降としたほうが良い状況。景気と物価動向を注視している。(木材・他建築材料卸売業)
- ネット通販の伸びで業績は良くなっている。実店舗とあわせて業績が安定するよう、方策を思案している。
(靴・履物小売業)
- 売上が増えても、利益を比例してとれない現状。いつになったら良くなるのか先が見えない。
(家具・インテリア小売業)
- 消費税率が上がるため、システムメンテナンスに関する引きあいが増え、売上確保の一因になっている。
(ソフトウェア業)
- 景気は上向きだが、営業努力にも関わらず、売上・収益の伸びが鈍化しつつある。売上・収益向上のため計画を再検討しなければならない。
(建物サービス業)

7. 物価変動について

- 材料が1年前から少しずつ値上がりしているのに、消費税が上がる前に、製品の値上げをする予定である。(照明・電子応用装置製造業)
- 原材料費の値上がりにより仕入れ単価は上がっている。しかし、販売価格には転嫁しにくい状態が続いている。(呉服・服地・寝具小売業)
- 米の仕入・販売価格が大幅に下がったため、仕入れを通常より30%増やしている。(各種食料品小売業)
- 景気は良くないのに、物価がどんどん上がっていると感じる。これで消費税が上がったらどうなるのか心配。(理容業)

8. 消費税について

- 消費税が上がる前に、高額な貴金属が売上を伸ばしている。春までとまらないよう期待したいところ。(貴金属・宝石製造業)
- 日常の必需品ではないものを加工しているため、消費税が上がった後の落ち込みが心配である。(繊維工業)
- 消費税の価格表示は、どの方式が最善なのか悩んでいる。税率変更により、カタログや価格表示の変更などのコスト・手間がかかるが、2段階での税率引き上げで、小企業にはますます負担が大きい。(装身具・身の回り品卸売業)
- 消費税増税の対応に苦慮している。過去の消費税の導入・引上時には、年間ベースで売上が減少しており、政府の景気対策による下支えを期待している。(各種食料品小売業)
- 来年春に住宅購入・新築のお客様の下見が多くなっている。4月からの売上減少が心配である。(家具・インテリア小売業)
- 料金単価を内税にしており、税率変更後、一般ユーザーへの支払い変更の周知が難しい。客離れがおきない設定をするのにも苦慮している。(駐車場業)
- 消費税が上がり、企業倒産や顧客数減少による不景気が到来するのではないかとオリンピック関連事業により落ち込みが軽減されることを期待したい。(リネンサプライ業)

9. 中小企業税制について

- 利益をあげ税金を納めると義務を果たしたという実感が得られるが、利益が上がらない年は苦しいばかり。業種によって良い年・悪い年があるので、複数年度税制などが選択肢としてあっても良いのではないか。(計量・測定・分析器製造業)
- 最近の税制はかなり変化があり、知らないと損をしかねない状況だと感じる。(コンビニエンスストア)
- 税金が高く、不公平感がある。個人も所得が高い層から控除額を減らすなどしているが、頑張る意味をなくすし、ポテンシャルの維持が難しくなる。(運輸付帯サービス業)

10. 人材の確保・育成について

- 中小企業の人材確保は非常に大変。行政の支援策もあるようだが、あまり情報が入ってこない。また、利用するにも手間がかかる事が多いので、簡単かつ利便性が高い制度を希望したい。(特殊印刷業)
- 若い人の現場離れが進み、技術を伝えることができない。どんなに時代が変わろうともづくりの原点は現場であり、人材である。このままでは貴重な技術が消滅してしまう。(塗料卸売業)
- 零細企業になかなか気の利く人材が集まらず、どのような募集が効果的なのかも悩ましい。求職する人の考えがわからず、将来黒字倒産になりかねないと心配している。(ゴム・プラスチック卸売業)
- 1年程前から人材の確保が難しくなってきた。仕事はあるが、人が足りず受注できない状況が続く、売上・収益を伸ばせない理由になっている。(ソフトウェア業)
- 業務上、人材(資格や倫理)が商品(提供するサービス)の質に直結する。有能な人材を確保したいが、給与に反映するには業績の安定が課題である。(計量・非破壊検査業)

11. TPP、その他

- 円安による原材料高、消費税増税と駆込み需要の反動が心配。さらにTPPで、力のない小企業はついていけなくなると思う。(なめし革・革製材料製造業)
- 電力料金の値上がり最大の関心事となっている。製品価格への転嫁はなかなか進まない。(鉄鋼・非鉄金属製造業)